

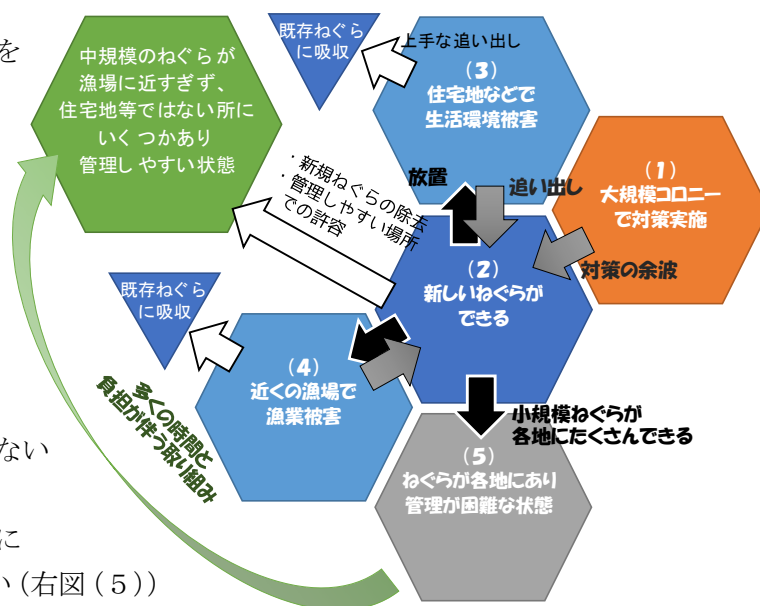
ねぐら・コロニーの分布管理について

カワウの管理計画を策定している都道府県は、他の獣類に比べて少ない状況が続いていたが、近年、策定する府県が増えている。管理計画の作成に際し、個体数調整と並んでねぐら・コロニーの分布管理が重要となる。昨年度末に管理計画を作成した広島県（特定計画）や鳥取県（任意計画）では、県内を3~4つの地域に区切り、その中で分布管理の考えを取り入れるなど、分布管理によってカワウを管理していくための工夫や知見が蓄積されつつある。また、生活環境被害などの対応のために、市町村単位でねぐらの除去が実施される事例が増えてきている。ねぐらの除去は都道府県全体のカワウの分布に影響を与えるため、都道府県としてのねぐらの分布管理の方針の有無や、都道府県と市町村との連携が重要になる。

そこで、昨年度、カワウのねぐらからの追い出し及び新規ねぐらの除去による分布管理の事例を整理し、検討会にて議論を行なった。ねぐら・コロニーの分布管理の推進に向けて、より掘り下げた議論をするため、専門家が直接関わった分布管理の事例について、周辺のねぐらを含めたカワウの動向などを交えて、各専門家より事例を紹介していただき議論する。

分布管理が必要になる5つの場合

1. 大規模なねぐらやコロニーで攪乱を伴う対策を実施する必要が生じた（右図（1））
2. 新しいねぐらができる（右図（2））
3. ねぐらの場所が住宅地等に近く、樹木枯死や糞害を許容できない（右図（3））
4. ねぐらの場所が放流地点や主要な漁場に近く、飛来防止策が機能しない（右図（4））
5. 小規模なねぐらやコロニーが各地に多く存在し、調査や管理がやり難い（右図（5））



分布管理の成否に関係すると思われる確認項目の整理

1. ねぐら形成後の経過年数
2. ねぐらの規模（カワウの個体数）と営巢の有無
3. 周辺のねぐらや採食地の分布状況
4. 追い出しや除去の状況（時期、方法、動機や目的、実施体制）
5. 実施前の準備状況や計画性（個体数ではなく被害を減らすためのビジョンの有無）
6. 事後モニタリングの体制とアフターフォロー（分派ねぐらの除去等）
7. 関係者の巻き込み方、関係者との連絡体制

内部資料：紹介予定事例一覧

【愛知県】田原トヨタ工場 防風林・池（分散先）→池（既存に吸収）→約 20 年後に再分散
事前状況： コロニー 約 200 巣
専門家関与：石田朗氏

【愛知県】みどり湖 ダム湖畔林→消滅→約 30 年後に再形成→消滅
事前状況： コロニー 約 60 羽、10+ 巣
専門家関与：なし <説明：石田朗氏>

【愛知県】伊勢湾周辺（弥富野鳥園：拡大抑制、佐布里池：消滅→1/20 が石瀬池→雨山ダム）
事前状況： コロニー 約 15,000 羽、約 3,500 巣
専門家関与：石田朗氏

【東京都】浜離宮庭園→第六台場（対岸）浜離宮庭園→行徳鳥獣保護区
事前状況： コロニー 約 1,400 巣
専門家関与：加藤ななえ

【千葉県】夷隅川 中流→下流
事前状況： ねぐら 約 200 羽
専門家関与：（千葉県水試が関与）<説明：加藤ななえ>

【滋賀県】竹生島→奥の洲 竹生島←→葛籠尾崎
事前状況： コロニー 約 40,000 羽
専門家関与：須藤明子氏、須川恒氏、亀田佳代子氏

【滋賀県】西川池、大正池、瀬田川、小野地先、永原御殿跡、野洲川林
事前状況： コロニー 約 500 羽
専門家関与：須藤明子氏、亀田佳代子氏、加藤洋氏、加藤ななえ、高木憲太郎

【三重県】津市栗真町屋町→雲出川古川
事前状況： ねぐら 約 200 羽
専門家関与：高木憲太郎

【京都府】羽束師橋上流右岸→中州
事前状況： ねぐら 約 800 羽
専門家関与：須川恒氏（京都府水産課が関与）<説明：高木憲太郎>

【新潟県】李崎、渡辺、水道町、横田、小根岸、宮中、五辺
事前状況： 李崎コロニー 約 300 羽 90 巣・小根岸コロニー 約 700 羽
専門家関与：山本麻希氏

【秋田県】米代川 横岩（中流）→水管橋（下流）
事前状況： ねぐら 500~800 羽
専門家関与：山本麻希氏、坪井潤一氏
